

令和2年度 第2回横手市地域公共交通活性化協議会 会議録（概要）

日 時 令和2年10月20日（火） 13:30～15:00

場 所 横手市役所本庁舎 2階 第一会議室

出席者 20名（うち随行者2名）

欠席者 3名

事務局 4名

○開会

事務局 これより第2回横手市地域公共交通活性化協議会を開会する。

○会長あいさつ

会長 お忙しいところ、協議会へご出席いただき感謝申し上げます。

みのりの秋ということで、10月30日より秋田県種苗交換会が本市にて開催される。従来、7日間4会場といった期間・規模での開催であるが、このコロナ禍ということもあり、コンパクトな開催とし、感染症対策への注目を集めているものにとらえている。検温所を設置しマスク着用・手指消毒もしっかりと行える体制で開催となるので、委員各位もご来場いただければ幸いである。

本会は二回目の開催となる。議案として、柏木大森病院線の実証実験について状況報告し、令和3年4月から本格運行を図りたいとしているため、よろしくご審議の程をお願いする。他2件の案件についてもよろしくをお願いする。

○議事

議案第1号 横手市自家用有償旅客運送「柏木・大森病院線」について
（事務局から資料1に基づき説明）

会長 ただいまの説明に対し、ご質問・ご意見等があればお願いしたい。

伊藤委員 スクールバスを利用していることはいいことと思う。

本議案にかかる実証実験を経て、デマンド交通への弊害はあったか。
また、バス停が沢山設置されているようであるが、利用者のいないバス停について交通の障害となるようなことがあれば、位置の見直しが必要なのではないか。

事務局 デマンドへの影響については、柏木・大森病院線運行開始からの実績

を見る限りでは特段大きな落ち込みは見られず、影響はほとんどないものと考えている。

またバス停について、運行ルート上では、多くの区間でフリー乗降としているため、自由に乗り降りしていただいている。今後交通の便に懸念が出るような停留所の位置が出てくれば、検討する。

柴田委員

バス運転手からの話を伺ったところ、大雄地域（藤巻地区）からの利用もあるようで、大変よい事業と思っている。

利用者からの要望であるが、大森地域局前の乗降場所ではなく、うえたストア近くを乗降場所にするにはできないか。

また、現在は週二日の運行であるが、今後免許証を自主返納する方や高齢者が増え、利用者の増加が予想されるため、将来的に運行日を増やす検討をしてはどうか。

事務局

大雄地域からの利用は大変うれしく思う。

まずはうえたストア近くの乗降について、運行開始時に大森地域局とも検討したところであるが、店舗へ行く道路が細く、特に冬季間は道幅が極端に狭くなる。また店舗を自家用車で利用する方々も多いことから、店舗利用者と代替交通利用者双方の安全面から大森地域局前を乗降場所としていることにご理解いただきたい。

次に運行日の検討について、当然今後ニーズが増えてくるようであれば、その実績を踏まえて運行曜日や回数についても検討したい。

井上委員

運行バスの安全性について、運転手の安全面や技術的な指導、研修等の状況はどのようになっているか。

また、実証実験から本格運行となるが、料金の見直しをする予定はあるか。

事務局

運転手等の安全面については、運行前に雄物川地域課において運転手の健康チェックや車両チェックを行っている。

料金等は、実証実験の条件を引き継ぐ形で本格運行へ移行することとして本日も審議いただきたい。

井上委員

コロナ対策は行っているか。

事務局

車内の換気や除菌用品の常備をはじめ、運行前に運転手の検温チェックを行っている。

- 宮川委員 利用者へのアンケートは行っているか、または行う予定はあるか。
資料を見ると、「高畑」等停留所の利用者が少ない場所がある。利用者の少ないバス停付近の町内会等に対して乗り方講座の開催や利用無料券を配布するといった利用促進を図ってみてはどうか。
- 事務局 地域の声を直接伺いたくアンケートの形はとらず、7月下旬に3地域へ出向き意見交換会を開催したところ。
利用促進については、日中の運行であり主に高齢者の方による利用が想定されるため、地域局と協議しながら対応を検討する。
- 宇佐美委員 実際に一か月に一回程度、利用させていただいている。そのなかで気づいた点について報告申し上げる。
福地から乗る方はトラストで降りる方が多い。しかし、大森病院まで行く方はほとんどいない。
逆に大森から乗る人はトラストまで足を伸ばすことは無く、近場で用を済ませている。
薄井地区からの大森病院への利用希望が多かったが、実際は利用していない。
利用希望が多かった地域もいざ運行が始まると利用はそうでもない。
このように、希望と実際の利用には乖離があるようだ。
- 事務局 ご指摘のような実態はまさに実証実験を行うことで初めてわかる部分であると考えている。
- 伊藤委員 利用料金について、小学生以下100円となっているが、利用実績はあるか。
- 事務局 平日日中の運行であるため、実態として高齢者が多い。
- 伊藤委員 それならば高齢者が利用しやすいようにしていくことがよいのではないか。スクールバスに1～2人の利用では規模としてそぐわないように思う。
- 会長 ほかにないようであるので、議案第1号 横手市自家用有償旅客運送「柏木・大森病院線」について承認することとしたい。

議案第 2 号 代替交通「睦合線」停留所の一部変更について
(事務局から資料 2 に基づき説明)

会長 ただいまの説明に対し、ご質問・ご意見等があればお願いしたい。

吉川委員 周知についてはどのように考えているか。

事務局 市ホームページへの掲載と 12 月 1 日号の市報に掲載ないしはチラシの折込での周知を考えている。

吉川委員 恐らく、ホームページでは利用者の方は見ないと思われる。チラシ等を利用して、利用者が困らないように周知をお願いする。

事務局 承知した。当該停留所の利用実績として年間 10 名程度であり、現停留所へもチラシ張出し等にて対応したい。

会長 ほかにないようであるので、議案第 2 号 代替交通「睦合線」停留所の一部変更について、承認することとしたい。

議案第 3 号 横手市運転免許証自主返納サポート事業「横手市公共交通利用回数券」について
(事務局から資料 3 に基づき説明)

会長 ただいまの説明に対し、ご質問・ご意見等があればお願いしたい。

吉川委員 自主返納された方への交付回数は一回のみか。それとも毎年交付するのか。

事務局 一回きりとなる。

伊藤委員 チラシ裏面にある「運転経歴証明書所持の特典」という事業は県事業ということによいか。

事務局 そのとおりである。

伊藤委員 市の独自事業として、1 回の交付回数を増やすことはできないか。もしくは、県事業である運転経歴証明書の特典に市独自で上乘せをし、市

内利用についてお得に利用できるようにすることはできないか。

事務局 回数券事業は免許自主返納についての家族による説得等を側面的に支援したいという観点で実施している。運転経歴証明書の特典については委員おっしゃるとおり県の事業であり、予算の関係等もあることから、今後検討していく。

伊藤委員 余地があればよろしくお願ひしたい。

井上委員 本議案の承認後はチラシを作り直すのか。

事務局 その予定である。

井上委員 免許証の返納窓口である警察署では、本議案にかかるチラシを配布しているのか。

村上委員 返納される際に、チラシ等で制度利用の案内をしている。参考までに、返納者の数は平成 29 年には 307 名、平成 30 年は 322 名、令和元年は 420 名と年々増えていることから、窓口でご説明し、事故防止に役立てたいと考えている。

井上委員 ちなみに羽後交通では、免許返納者へゴールドフリー定期という支援事業を行っている。返納を証明するものがあれば月 1 万円から購入できるもので、羽後交通全区間は乗り放題となっている。ぜひ、この支援事業についても周知にご協力いただきたい。

宇佐美委員 今回参入するオレンジケアと大森産業が使用する車両はどのようなものか。

事務局 大森産業は軽ワゴン車、オレンジケアは普通ワゴン車を使用している。

宇佐美委員 福祉輸送となれば、運転手のみで輸送はできないこととなっていると思うが、そういった体制等について事務局は把握しているか。

吉川委員 宇佐美委員のご指摘について、介護施設やデイサービスでの送迎についてはそうであるが、本議案における介護タクシーについては、あく

までもタクシー事業にかかる福祉輸送であることから、運転手以外の同乗等が必須ではない点、ご認識いただければと思う。

井上委員 本議案にかかる介護タクシーでの回数券利用について健常者、介護者が利用することは可能か。

事務局 車いす等の介添えのために介護タクシーへ同乗されるのであれば利用可能である。

会長 他にないようであるので、議案第3号 横手市運転免許証自主返納サポート事業「横手市公共交通利用回数券」について承認することとしたい。

○その他

伊藤委員 次回の協議会の開催はいつになるか。

事務局 現時点では、今回が今年度最後となる予定である。

佐藤委員 タクシー業界の現状について、ハイヤー協会からの情報共有を行いたい。

今年度は3月ころから収入が減少となり、その傾向は6月まで続いていた。特に観光地での減少が大きく、また秋田市の繁華街も同様である。

7月ころから若干の回復傾向がみられたところだが、東京都で再度感染者増加の報が出たこと、イベントや祭りの中止等もあり、8月からまた落ち込んだ。

一方で、県内各地域のデマンド交通のように買い物や通院といった生活輸送については落ち込みがなかったようである。

横手市について、日中の運行は回復しつつあるが、夜の運行については宴会等の減少が影響してまだ回復には至っていない。通院・買い物・金融機関の利用のような日中の利用については前年8~9割程度の回復、夜の利用については5割にも至っていないような状況である。

井上委員 当社の状況では、乗合、高速、貸切の3事業を主に展開している。そのうち、乗合では前年比73%の収益となっている。高速は、東京便は8月のお盆過ぎから運休となっており、仙台便についても前年比20%程度の状況である。また、最も影響の大きな貸切についても8割減となっている。

コロナの影響による修学旅行の延期、中止となったことが大きく、貸切のみを行っている事業者は、より大きな影響を受けていると聞いている。

先般、運輸局と協力し、バスの換気性能について実験を行い、概ね 5 分程度で車内の空気が入れ替わることを確認した。

感染症対策として、車内換気だけでなく、乗務員の消毒や検温もしっかりと行っているため、タクシーもそうであるが、バスも安全な移動手段であることをご理解いただきたい。

吉川委員

タクシーは、乗車ごとにコロナ対策をしっかりと行っており、また、バスについても実験により車内換気が完全に行われていることが確認された。

そのため、東北運輸局でも利用者の不安払拭を目的に、バス利用は安全であるということを県の教育委員会へ働きかけていく予定でいる。

委員の皆様もバス・タクシーが安全である旨、周知にご協力をお願いする。

○閉会

事務局

これにて第 2 回横手市地域公共交通活性化協議会を閉会する。

以上